

事務事業名		資産評価システム研究センター参画事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	5 市民みんなで作る夢のあるまちづくり					担当組織	担当部	総合政策部	担当課	資産税課
	政策	2 自立した行政経営によるまちづくり					担当係		管理係	担当課長名	櫻井 彰
	施策	2 持続可能な財政運営の推進					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1 市税の収納率の維持・向上					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	2651	一般	2	2	1	資産評価システム研究センター参画事業					
	事業区分						市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	昭和53年度～ 年度			根拠法令	任意の事業・義務的の事業		任意の事業		
	単年度繰り返し	昭53年度～				根拠法令	実施方法		直営		
	単年度繰り返し	昭53年度～				根拠法令	事業分類		参画事業		
	単年度繰り返し	昭53年度～				根拠法令	リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長マニフェスト		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)								
<p>「一般財団法人 資産評価システム研究センター」に正会員として参画し、固定資産税に関する評価技術の習得及び情報収集による知識の向上を図ることを目的として、負担金を支出する。</p> <p>※資産評価システム研究センターとは、固定資産税に関する調査、最新情報等の提供及び資産評価関係の各種研修会開催を目的として全国市町村及び都道府県を会員とし運営している団体である。</p> <p>※平成26年4月現在、全ての都道府県及び市町村が加入している(1,765団体)。</p>			<p>(市の活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報誌及び各種発行資料からの情報収集 「(一財)資産評価システム研究センター」に負担金の支出 ※負担金算出基準:人口5万人以上20万未満の市 負担金 90,000円 <p>((一財)資産評価システム研究センターの活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資産評価に関する調査研究、各種研修会の開催及び情報誌等の情報提供 								
			活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)		
			情報誌等発行数	冊	12	12	12				
			評価研修会参加者数	人	0	2	1				
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
資産税課職員			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)		
(参画対象団体) 一般財団法人 資産評価システム研究センター			資産税課職員数	人	17	17	16				
目的											
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)			成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)		
資産評価に関する全国各市の状況や最新情報を得ることで、資産評価に関する職員の技術や知識の向上を図る。			有効な情報を得た職員の割合	%	100.0	100.0	100.0				
			研修に参加し技術等が向上した職員の割合	%	0	11.8	6.3				
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)											
十分に歳入が確保されている。			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)		
			収納率(現年度課税分)	%	98.7	98.9	98.5	98.5	98.5		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)					
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	90	90	90							
	事業費計(A)	千円	90	90	90	0	0					
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			システム研究センター負担金	90	システム研究センター負担金	90	システム研究センター負担金	90				
	人件費	人	1	1	1							
のべ業務時間	時間	1	1	1								
人件費計(B)	千円	4	4	4	0	0						
トータルコスト(A)+(B)	千円	94	94	94	0	0						

事務事業名	資産評価システム研究センター参画事業	担当部	総合政策部	担当課	資産税課	担当係	管理係
-------	--------------------	-----	-------	-----	------	-----	-----

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	「一般財団法人 資産評価システム研究センター」は、全地方公共団体を会員とする調査研究機関として昭和53年に設立されたため当初から参画している。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	税制改正が毎年行われることにより資産評価や課税事務が複雑化している中、最新情報の収集や評価技術の習得が不可欠となっており、専門的な知識を持つ職員の育成が求められている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	特になし

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	本年度は、職員2名が「固定資産評価研究大会」に参加することができ、職員の知識・技術の向上につながった。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	理由・改善案	資産評価についての情報等を得ることで職員の知識・技術が向上し、評価の適正化・公平化を図ることができ、納税者の理解のもと固定資産税等の財源確保に結びついている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	理由・改善案	資産評価に関する最新情報の収集や技術の習得は、固定資産税を課税するうえで必要不可欠であり、妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	理由・改善案	この参画事業は、資産を評価する職員の知識・技術の向上につながるため見直す必要はない。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	理由・改善案	資産評価に関する最新情報の取得や各種研修会等への参加により、職員の評価技術や知識の向上が図られている。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業名	
	類似事務事業はない	理由・改善案	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	理由・改善案	事業費は同センターへの負担金であり、市町村の人口規模により定額となっているため削減の余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	理由・改善案	この事業は参画事業であり、結果的に受益者は不特定多数の市民となることから、受益者負担を求める余地はない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)		
	税制改正が毎年行われ、資産評価が複雑化する中では、常に最新情報の収集や評価技術の習得が必要不可欠であるため、この参画事業は継続されるが、同センターが解散等になった場合には、この事業も廃止となる。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																						
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持			×																			
	低下		×	×																			